

- 問1 幕府が財政難を解消するために、小判の金の含有量を減らして利益を得た「元禄の貨幣改鑄」が行われた年はいつ？
- 問2 江戸幕府が大名を統制するために定めた法律を何という？
- 問3 江戸時代、株仲間などが営業の対価として幕府に上納した税金のことを何という？
- 問4 江戸時代に朝鮮から派遣された使節の来日に際し、仲立ちを行って外交を支えた藩を何という？
- 問5 『富嶽三十六景』を描いた、江戸時代を代表する浮世絵師は誰？
- 問6 江戸時代、海上交通網の整備により物資が活発に流通し、「天下の台所」と呼ばれて経済の中心地として栄えた都市を何という？
- 問7 江戸時代、日本から銅などを輸出する唯一の貿易港として利用された場所はどこ？
- 問8 1669年、松前藩による不当な交易や支配に反対して、大規模な蜂起を指導した人物は誰？
- 問9 江戸時代に、食べるためではなく、売ることを目的として栽培された綿や茶などの作物を総称して何という？
- 問10 江戸時代、全国の物資が集まり、商業や流通の中心地となった大坂のことを何という？
- 問11 1600年の関ヶ原の戦いに勝利し、1603年に江戸幕府を開いた人物は誰？
- 問12 松平定信が老中に就任する前、財政再建を目指して商業重視の政治を行った人物は誰？
- 問13 幕府が外国船への対応を改め、やがて開国へと向かうきっかけとなった、1837年に起きた事件を何という？
- 問14 仏教や儒教などの外来思想の影響を受ける前の、日本固有の精神を究明する学問を何という？
- 問15 江戸時代、農村などで農家が副業として自分の家で行った小規模な工業生産のことを何という？
- 問16 江戸幕府が、キリスト教の禁止や貿易の制限を目的に、長崎以外の出入りを厳しく制限した外交政策を何という？
- 問17 江戸時代に幕府から営業の独占権を認められた商人組合のことを何という？
- 問18 元禄文化が花開いた当時の将軍で、文治政治をすすめた人物は誰？
- 問19 18世紀後半から19世紀初めにかけて、文化の中心地として化政文化が栄えた場所はどこ？
- 問20 江戸時代に流通した、貴金属の含有量によって価値が決まる貨幣を何という？
- 問21 アイヌ民族が居住する地として知られ、明治時代に改称された現在の日本の地域を何という？

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1695年	1695年に実施された元禄の貨幣改鋳は、小判の金の含有量を意図的に減らして発行し、その差額を幕府の収入とする政策でした。貨幣の量を一時的に増やすことで経済活動を促進しようという狙いもありました。
問2	答え 武家諸法度	「武家諸法度」は、城の改築や大名同士の婚姻を幕府の許可制にするなど、大名の行動を厳しく制限する法律です。この法度を守らない大名は改易や減封の処分を受けることがありました。これにより、幕府は全国の武士を完全に支配下に置きました。
問3	答え 運上	運上は「冥加」と並び、株仲間の商人が営業を許可される対価として定期的に納める税金です。主に鉱山経営や特定の商売を独占している者から徴収されました。これにより幕府は商人の経済活動を公認し、全国的な流通網を管理下に置こうとしました。
問4	答え 対馬藩	対馬藩は、現在の長崎県に位置する島を拠点としていました。地理的な条件を生かし、日本と朝鮮の間の外交や貿易の窓口としての役割を果たしました。幕府の意向を受けて朝鮮へ交渉を重ね、将軍の代替わりごとに朝鮮通信使が来日する仕組みを維持し続けました。
問5	答え 葛飾北斎	葛飾北斎は、各地から富士山を眺めた景色を描いた『富嶽三十六景』で、浮世絵の中に「風景画」というジャンルを確立しました。大胆な構図と、輸入染料「ベロ藍」を使用した鮮やかな青色が特徴で、当時の人々に衝撃を与えました。
問6	答え 大阪	大阪は、諸藩の蔵屋敷が立ち並び、全国各地の年貢米や特産物が集まる流通拠点として機能しました。これにより「天下の台所」と称され、米の相場が決まるなど経済の中心地となりました。
問7	答え 長崎	長崎の出島にはオランダ商館が置かれ、中国（清）との貿易も行われました。銅は重要な輸出品であり、銀とともに日本が海外から金や絹などを輸入するための決済手段として重視されました。
問8	答え シャクシャイン	1669年、アイヌの指導者シャクシャインは、各地のアイヌをまとめ上げて松前藩に対する大規模な蜂起を起こしました。これは、一方的な交易条件を強制されていたことに対する抵抗でした。
問9	答え 商品作物	商品作物は、自給用ではなく販売用として、綿花、茶、菜種（なたね）、タバコなどが栽培されました。これらの作物は特定の地域で特産品として生産され、全国で流通しました。これにより、農民は単なる年貢の生産者から、市場に関わる生産者へと変化しました。
問10	答え 天下の台所	諸藩が大坂に米などを販売する拠点を置いたため、大坂は全国の経済の中心地となり「天下の台所」と呼ばれました。米の価格はここで決まり、金融や証券取引も発達しました。
問11	答え 徳川家康	1600年の関ヶ原の戦いで勝利したことで全国支配の主導権を握り、1603年に朝廷から征夷大将軍に任命され、江戸に幕府を開きました。彼が定めた武家諸法度などの法体系は、幕府の長期統治を支える柱となりました。
問12	答え 田沼意次	田沼意次は、株仲間の結成を許可して税を納めさせるなど、商業の力を利用して財政を立て直そうとしました。また、長崎貿易を拡大するなど積極的な政策を進めましたが、同時に賄賂が横行するなど政治の腐敗も問題視されました。
問13	答え モリソン号事件	アメリカの商船モリソン号が、日本の漂流民を送り届けるという名目で浦賀に来航しましたが、幕府はこれを追い返しました。この事実を知った蘭学者の渡辺崋山らが、幕府の強硬な外交姿勢を批判し、日本の防衛について議論が高まりました。
問14	答え 国学	国学は、日本の古典を研究することで、外来思想が入ってくる前の日本人の精神性や文化を明らかにしようとする学問です。本居宣長はその中心的人物であり、古典研究を通じて日本古来の思想や美意識を探究しました。
問15	答え 家内工業	家内工業は、主に農家が家族の労働力を使って、綿織物や布製品などの加工品を作る活動です。当初は自分たちの生活用でしたが、やがて問屋から原料を供給されて製品を納める「問屋制家内工業」へと発展しました。
問16	答え 鎖国	17世紀半ば、幕府は外国船の来航を長崎に限定し、日本人の海外渡航を禁止しました。これにより幕府は海外情報を独占し、貿易の利益を管理下に置きました。
問17	答え 株仲間	株仲間は、商人たちが組織した独占的な組合です。メンバーは「株札」を持つことで営業の権利を保障され、幕府に対して「冥加金（みょうがきん）」と呼ばれる税を支払いました。これにより経済の安定が図られました。
問18	答え 徳川綱吉	第5代将軍として、自らも儒学の講義を行うなど学問を深く奨励しました。また、綱吉の時代には経済も安定し、華やかで人間味豊かな文化が栄える基盤が作られました。一方で、「生類憐れみの令」でもよく知られる将軍です。
問19	答え 江戸	かつての文化の中心地であった上方から、経済力と人口を兼ね備えた江戸に文化の中心が移りました。この時期に栄えた文化を化政文化と呼び、浮世絵や俳諧、読本などの新しい町人文化が江戸の町で大いに発展しました。
問20	答え 金貨	金貨は、その中に含まれる金の純度や重量が貨幣としての価値を決定しました。代表的なものに「小判」があります。経済の拡大とともに貨幣の流通量は増え、商取引がスムーズに行われるようになりました。
問21	答え 北海道	明治維新後、政府は北方領土の守備と開発を目的として「開拓使」を設置し、1869年にこの地を「北海道」と改称しました。これにより本格的な開拓が始まり、多くの移住者が本土から渡りました。